

マンションライフを、もっとステキにシフトする。

ENTLINK®

エントリンク

ISSUE
the number

01

創刊号
2023



特集
マンション
×
防災



防災を意識した暮らし方
今こそ考えませんか？

TAKE
FREE

サステナブルで快適な日々へENTLINKでライフシフト！

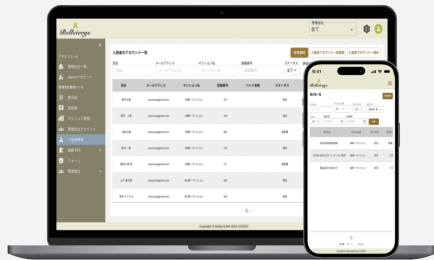
「居住者ファースト」のマンション管理システム



Bellcierge®

ベルシエルジュ

マンションライフを向上させる
居住者目線のマンション管理システム
「Bellcierge (ベルシエルジュ)」



ベルシエルジュは各マンション単独で活用できるクローズド型管理システムです。マンション居住者と管理会社のコミュニケーションをIT化・DX化。マンションコミュニティの円滑化と各種利便性の向上を推進します。すべてスマホ・タブレットで操作が可能。掲示板情報の閲覧、施設利用の予約・決済もWEB上で完結します。理事会運営管理や設備工事工程管理などに加え、「GAZY (マンション内リユース共有コンテンツ)」や目安箱等、居住者から発信できるツールをご準備。また、「フォーム」機能でやりたいことが多様化。空駐輪場の抽選や、各種出欠確認などの機能も充実しています。

多様な機能をご用意しています▼



導入/ご利用料金

基本料金 導入初期費用
19,800 円/1棟

利用料金
8,800 円/月々



ご利用料金無料サービス

マンション情報誌「ENTLINK®」を
マンション内各住戸に配布いただくことで
左記料金が**無料**に！(年4回発行)

LIFE SHIFT

もっと気軽に もっと快適に SDGs

忙しい毎日でも、新しいアイデアをプラスすると
マンションライフはもっと便利に楽しくなります
SDGsだって難しく考えなければ
毎日の生活の中で実践できるはず
たとえば子どもたちの洋服を地域で交換
あるいは家具をリサイクル
車や自転車をサブスクで利用
少しの工夫をサステナブルな生活につなげていく
それが「ライフ・シフト」です
エントリンクは集合住宅に住むあなたへ
楽しく役立つ情報をお届けする
マンション専用情報誌
暮らしを豊かにシフトするためのヒントを
衣・食・住・娯楽を通じてお届けします
さらにマンション独特の課題を
スムーズに解決するプランもご提案していきます
もっと快適な毎日を
もっとサステナブルな生活を
エントリンクと一緒に考えてみませんか

CONTENTS

特集マンション×防災

- | | | | | | |
|----|--|----|---|----|--------------------------------|
| 03 | スペシャルインタビュー
向井亜紀×斉田季実治
マンション防災を考える | 07 | Let'S Try 試してみました保存食
おいしい保存食をふだん使いで
ローリングストック | 09 | 食べて応援
「共助の力」で復興を後押ししよう |
| 11 | エコツーリズム
東北復興ツーリズム
あなたのエネルギーをハワイに | 13 | TOKYO 強靱化プロジェクト
「100年先も安心」をめざして | 15 | 知る・見る・考える「自助・共助」
東京防災学習セミナー |
| 17 | 国連を支えるこども未来会議 | 19 | 暮らしを支える自治体の今を知る
健康づくりを通して
地域の絆を深める大田区 | 22 | WEB 情報／編集後記 |

SPECIAL AMBASSADOR



むか い あ き
向井亜紀

PROFILE

テレビ・ラジオなど幅広く活躍。1994年に元格闘家の高田延彦氏と結婚。高田氏とともに全国各地で親子向けの無料体育教室「高田道場ダイヤモンドキッズカレッジ」を行い、のべ2万人以上の子どもたちとふれ合っている。またアフリカへ古着を送る活動、ゴミを出さない美味しい食生活などSDGsを実践している。



マンション防災を考える

インタビュアー

気象予報士・NHK気象キャスター・防災士

向井亜紀 × 斉田季実治

関東大震災から100年後の今、考えたい防災とは

今年の夏は暑かった！日本はもちろん世界中が沸騰したような年でした。また地震や豪雨、森林火災など自然災害が世界各地で頻発しています。そんな今、マンション居住者にとっての最適な防災とは何でしょう。

今回はマンション居住者を代表して向井亜紀さんがインタビュー。NHK気象キャスターであり防災士でもある気象予報士 斉田季実治氏に最新の情報を伺いました。

**猛暑・酷暑
熱中症
世界を襲う
激甚災害**

向井—NHKの気象ニュース、いつも楽しみに拝見しています。

斉田—ありがとうございます。

向井—今日はマンション住民として防災についていろいろ伺わせてください。どうぞよろしくお願いします。

斉田—こちらこそ、よろしく申し上げます。

向井—今年の夏は暑かったし長かったですね。
斉田—この夏の日本の平均気温は、1898年に統計を取り始めてから最も高くなりました。東京では真夏日が60日以上も続いています。こんなことは初めてです。

向井—熱帯夜も続いて、夏から秋までかなりバテました。

斉田—寝苦しい夜も多かったと思います。また、もともと35度以上の猛暑日という言葉はなくて、2007年に正式に作られたんです。40℃以上を酷暑日、最低気温が30℃以上の夜を超熱帯夜と呼ぶ気象会社もできています。
向井—その気温って百葉箱で測っているんですか。

斉田—百葉箱ではないですけど、通風筒と呼ばれる風通しの良い日陰の温度です。

向井—実際はもっと高いということですね。どうしてこんなに気温が上がっているんですか。

斉田—今年ならではの自然現象と温暖化の合わせ技だと考えられます。都市化の影響もありますし。



向井―熱中症で倒れた方もたくさんいらっしゃいました。そういえば斉田さんご自身も以前、熱中症になったことがあるとか。

斉田―子どもの面倒をみるのに必死で、気づくが遅れました。やはり無理するとかえって迷惑かけるのでダメですね。

向井―ビールで水分補給はNGですよ(笑い) 斉田―ですね。利尿作用があつて逆効果なので、反省します(笑い)

斉田―今年はずいぶん暑さでプール中止の日が多くありました。

向井―えー！暑いとプール中止なんですか？ 斉田―熱中症になるので。

向井―そうなんですか。知らなかった…。 斉田―異常な高温は日本だけでなく世界中が暑かった。色々被害もありましたし。今、世界は産業革命以前の平均気温から+1.5℃の上昇に抑えようと取り組んでいます。

向井―SDGsのひとつですね。 斉田―ある程度気温が上がってしまうと元には戻らなくなってしまいます。生き物が住めなくなってしまうのは手遅れですから。

向井―みんなで考えないとならない問題ですね。

ハザードマップ キキクル情報は 常にアップデートを

向井―今年、台風や大雨の被害も多くなって変でした。線状降水帯などの聞きなれない現象も各地で起こりましたし。そもそもゲリラ豪雨とは、どう違うんですか。

斉田―ゲリラ豪雨は1つの雨雲が急激に発達してザッと大量の雨が降る。線状降水帯は同じ場所に次々と雨雲が発生して数時間大雨が降り続けるので大きな被害が発生してしまいます。

向井―川が氾濫して浸水してしまう被害も多くありました。

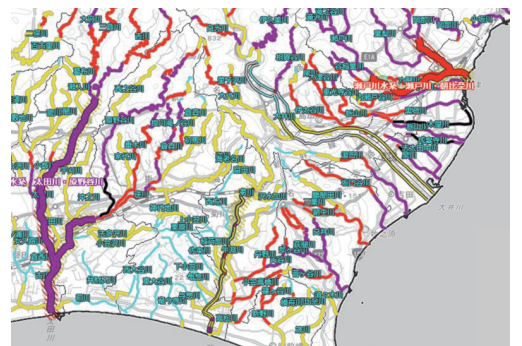
斉田―そうですね。でも川が氾濫しても避難するべき人の多くが、事前に避難できていない。この問題は大きいです。実は同じ地域でも住んでいる場所によって災害リスクは全然違います。

向井―そうなんですか。 斉田―だからふだんから自分が住む場所の危険度を

知ることが大切なんです。まずはハザードマップで確かめてほしいですね。

向井―ハザードマップを見ることで、どんなことがわかりますか？ 斉田―住んでいる場所に

どんな災害の危険があるのか



キキクル一例
「流域雨量指数」を用いた洪水キキクル
(洪水警報の危険度分布)気象庁HP

かをマップ上でみることが出来ます。地震、洪水、土砂災害、津波などです。あらかじめ自宅や会社などがどんな災害に弱い場所なのかを知ることが、できる備えがあります。

向井―知ることが防災の第一歩ですね。 斉田―ハザードマップがよくできてるんですよ。どんどん新しい情報にアップデートされていますし。実は国や自治体は再開発の際、

大雨による浸水を防ぐために水を一時的に貯める空間を地下に作ったりしています。防潮堤の高さも上げています。だから最新のマップを確認すると以前は浸水想定エリアだった都庁周辺が今は指定からはずれていたりします。

向井―常に新しい情報を得ておくことが重要ですね。

斉田―危険度分布「キキクル」では、危険度が5段階で色分けされて地図上にリアルタイムに示されるため、台風や豪雨の際はぜひ活用してください。危険を通知してくれるアプリもあります。

向井―それは便利。すぐ登録したいです。

向井―それは便利。すぐ登録したいです。

向井―それは便利。すぐ登録したいです。

向井―それは便利。すぐ登録したいです。

向井―それは便利。すぐ登録したいです。

さいたまきはる 斉田季実治

気象予報士／気象キャスター／防災士

大学で海洋気象学を専攻、在学中に気象予報士資格を取得。報道記者として悲惨な自然災害の現場を数多く取材。災害被害を未然に防ぎたいとの想いから気象の専門家の道へ。民間の気象会社を経てNHKで気象キャスターに。現在はニュースウォッチ9等に出演。連続テレビ小説「おかえりモネ」気象考証を担当。防災士、一級危機管理士、星空案内人(星のソムリエ)、一般社団法人ABL Lab 宇宙天気プロジェクトマネージャー、NICT 宇宙天気ユーザー協議会アウトリーチ分科会長、NPO法人気象キャスターネットワーク理事。

PROFILE





齊田―情報ってアップされるだけでは意味がなくて、みなさん一人ひとりが理解して使ってくれることで生きてきます。

向井―人の心に届かないとダメなんです。でも難しい漢字が並んでいると、どのくらい危険が迫っているのか実感できないこともありそう…。

齊田―そう感じる方も多いいかもしれませんね。向井―齊田さんはいつもクールに話されるじゃないですか。豪雨の時だけは、もっと大げさにアピールしたほうが視聴者に伝わりませんか？

齊田―確かに報道の仕方を変わってきていますよ。東日本大震災以降、わかりやすく、伝わりやすい言い方になってきています。

齊田―危険な時は「逃げてください」とかストレートに訴えかけることもあります。

向井―「今すぐ命を守る行動を」という表現も聞いたことがあります。

齊田―知人や親せきなどの声掛けで避難したというケースも多いため、ニュースで伝えるように呼び掛けることもあります。

向井―私も親せきが多く住む鹿児島に台風

が近づくと「命が一番大事だから」とって連絡します。特に高齢者は先祖代々の土地を大事にするあまり逃げ遅れてしまう可能性もあって…。

齊田―国としては「自分の命は自分で守りましょう」というのが基本スタンスです。

向井―少し冷たいような…？

齊田―みなさんが適切に避難できるような可能な限りバックアップするのが国や自治体です。でも結局、何かあった時は自分や身近な人たちが助け合って何とかするしかない。

向井―東日本大震災の被災地で、あらかじめ具体的に避難方法を決めていた地域が助かっているの伺いました。もし津波が来たら、小学生のAちゃんは保育園のBちゃんの手を引いて、この道を通って裏山へ逃げましょうと、非常に具体的に役割分担までできていたそうです。ふだんからの決め事と訓練が実を結んだ素晴らしい実例ですね。

齊田―平常時、何もない時にこそ、どこまでリアルに組み立てて決めておけるかが肝心です。

向井―家族やご近所で話し合っておけると良いですよ。

地震が起きても マンションでは 在宅避難が 基本スタンス

向井―今年は何東大震災から100年という節目の年でもありました。地震について助言をいただけますか。



齊田―マンションに居住されている場合、耐震性も高いので避難所に行かなくて良い場合が多いと思います。いわゆる在宅避難ですね。突然ですが、向井さん。マンションの在宅避難で一番大事なことは何だと思えますか？

向井―うーん、水とか食料とか連絡手段とかですか？

齊田―一番はトイレなんです。

向井―トイレ忘れてました。

齊田―マンションは命の危険度は低いですが停電のリスクは避けられません。停電⇒断水という場合が多いでしょう。人間食べなくても数日は生きられますが、トイレは使えないと厳しいですよ。それも1日5回とか。

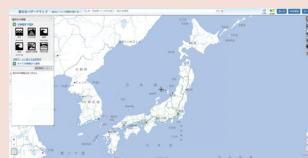
向井―簡易トイレも家族の人数×5回×7日間分必要ということ…結構な量！日に日に疲れが蓄積する中で、トイレが使えなかったら精神的にも参ってしまいそうです。

齊田―はい。災害時に大切なのはふだんの生活をいかに維持するか、なんです。だからトイレは大事。そして水や通信のための電気等ももちろん必要ですが、食べ物も大事です。ずっと缶詰ばかりだとどうしても辛くなる。

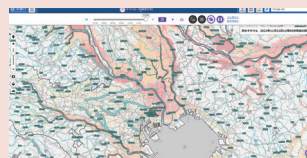
日頃の防災・災害時に役立つ情報サイト



国土交通省
防災ポータル



国土交通省
ハザードマップポータルサイト



気象庁
キキクル(危険度分布)

防災情報は各自治体HP等にも詳しく掲載されています。お住いの自治体HPを一度チェックしてみてください。



災害用
伝言ダイヤル
局番なし「171」
録音「1」 再生「2」



だからカセットコンロもあると良いですね。最近是非常食もおいしくなってますから、上手に選べばふだんに近い生活が維持できそうです。
向井—他に備えておくと良いものを教えてください。
齊田—市販の防災セット+薬やオムツ、お菓子など、その家々によってカスタマイズすれば良いと思いますよ。甘いものは結構必需品です。
向井—甘いものを分け合うと癒されますね。
齊田—わが家では毎年、キャンプに非常食を

ご近所との ほど良い距離が はぐくむ共助力

持って行くんです。BBQしながらコンロの使い方や安全性も確かめられますし。終わったらまた新しく非常食を買うようにしています。
向井—それは良いですね。気づいたら賞味期限が切れていたという話もよく聞きます。
齊田—もったいないですからね。これも気軽にできる小さなSDGsです。
向井—これまで「自助」について伺いました。「共助」についてもお話いただけますか。
齊田—マンションなどの集合住宅ではお隣の顔も知らないという方も多いでしょう。
向井—そうですね。わが家もお隣のこと、あまり知らないです。こんなにも災害の多い国に住んでいる、言ってみれば運命共同体の間なのに。
齊田—いざという時に頼りになるのはやはり隣近所との助け合いです。個人でできることには限界がありますから。
向井—でも災害の時に突然助け合うっていうのは難しいかもしれません。
齊田—そのために、ふだんから交流があるのが理想ですね。それも防災訓練だけ、とかだとなかなかコミュニケーションが深まらない。楽しいイベント、お祭りなどから始めた防災訓練ができると続くんじゃないでしょうか。
向井—避難訓練の後はみんなで焼き肉を食べに行くとか！？

齊田—子どもたちは喜びそうですね(笑)
向井—楽しいことを一緒に体験すると仲良くなれそうです。
齊田—そういったイベントの中心となる管理組合とか町内会は今高齢化が進んでいますよね。もつと若い層が積極的に参加できると良いかもしれません。
向井—あまり近くなり過ぎると面倒な部分もあって難しいですけど、ほど良い距離感でコミュニケーションを取り続けられるように努力したいですね。

向井—最後に読者の方に向けたメッセージをお願いしますか。
齊田—わたしたち日本人は自然災害の被害を多く被っています。その一方で、温泉など自然の恩恵もたくさん享受しています。逆にCO₂の排出などで自然へ悪影響を与えています。だから災害のリスクを知った上で適切な備えをし、自然と共存することが大切なんだと思います。
天気予報や防災情報は未来を良くするためもの。日々アップデートする情報を活用して災害時への備えをすることと地球温暖化を抑えること—その2つをぜひ実行していただきたいと思います。そして災害時には情報を生かして適切な行動をとってほしいと願っています。
向井—今日は防災に役立つ情報をたくさん教えていただき、ありがとうございました。

インタビューを終えて

年々多くなっている災害。マンションに住む私たちにできることは何だろうか？とあらためて考えました。物の備えはもちろん、人との関わりも大事な防災です。ふだん、お隣とは挨拶程度のお付き合い。でも、いざ命を守るという時に大切なのはご近所とのつながりだと実感しました。いきなり親密になるのは難しくても、共有スペースを利用した交流や、ちょっとした声かけから始めてみたいですね。

この記事を読まれた方が少しでも防災に興味を持ってくださることを願っています。

今後このENTLINKという冊子にもマンションコミュニティが災害時に役立つ例などを具体的に掲載していきたいと思えます。





LET'S TRY! ためして みました 保存食



どれどれ

おいしいからふだん使いできる 保存食をローリングストックにシフト

今年も豪雨などの自然災害が多くありました。自治体では地震や大雨などの被害に備え、水と食料の十分なストックを、と呼びかけています。そこで今回は保存食の「今」を知るため、『尾西食品株式会社』の保存食の試食会を実施しました。

基本の「白飯」を試食
A・B・C3種類を品名なしで配りました。1つはアルファ米[※]を水でもどしたものです。1つは宮城県産のひとめぼれを炊飯器で炊いたもの。すべて冷まして提供。記入用紙に好きな順番を記入してもらいました。
実際はAが水、Bがお湯、Cが炊飯です。C—B—Aと回答したのは8名中6名。それでもみなさん迷いながら選び、「どれもふっくらして、おいしい」という感想が多くあり、明確な違いはなかったようです。

種類も味もレベルアップした保存食
最近の保存食は味も格段に良くなり、バリエーションも豊富。その中から今回は白飯と8種類の品を試食しました。おふくろの味のなもの子ども向けのチキンライス、さらに若者も満足のCoCo吉番屋とのコラボカレーまで。みなさん保存食とは思えないほどおいしいと感心していました。
期限切れにはご注意ください
保存食は種類によってかなり長期保存できるものもありますが、うっかり奥にしまいこみ、期限が過ぎるという失敗もありがちです。

手軽にローリングストック
そこで今注目されているのがローリングストックです。ふだんの食事でおいしく無理せず無駄なく、SDGsの観点からも、食べながら備蓄[※]を心がけたいもの。定期的に保存食が届くシステムなどもあるので上手に活用したいですね。『尾西食品株式会社』の保存食ならアレルギーにも対応もしているのでさらに安心です。

お湯を注ぐだけ、を実際に体験
保存食を作ったことがない、という方にカレーピラフ作りを試してもらいました。袋上部を手でちぎり脱酸素剤とスプーンを取り出し、お湯を注いで軽く混ぜます。あとは口を閉じて15分蒸らすだけ。
水だけでも食べられる備蓄食を
水・カップラーメンなどをストックしている方は多いようです。でも災害時、火が使えないことを考え、水だけで調理できちゃう保存食を用意しておきたいですね。

事前アンケートの結果
みなさん食で重要なのは安全性、食品ロスにも気を付けているようです。保存食に関心はあっても、実際に備蓄していない方も多かったです。

事前に行った食に関するアンケートの結果（試食会参加8名分）

※複数回答

食で重要なことは	安全性	7人	栄養価	7人	カロリー	3人	
食のこだわりは	野菜を多くとる	7人	旬の食材	4人	カロリー	2人	塩分 2人
朝食を摂っている	毎日	4人	たまに食べる	4人			
外食の頻度	週1~2回	4人	月に1~2回	3人	ほぼ毎日	1人	
外食のこだわり	メニュー	7人	雰囲気	5人	価格	4人	
テイクアウトの利用	週1~2回	3人	月に1~2回	2人	月に3~4回	2人	利用しない 1人
食品ロスについて	気をつけている	6人	気をつけているがたまに食材をダメにすることがある	2人			
保存食の備蓄	水と食料を備蓄	3人	水のみ	1人	していない	4人	
備蓄しない理由	通常の食料で対応	3人	置場がない	2人			
保存食等の購入は	インターネット	4人	量販店	3人	個々に店舗で	1人	

ほー、
これが保存食。
おいしいなあ



他にもこんな商品を試食しました

- わかめのカットサイズにまでこだわった塩加減がちょうど良いわかめご飯
 - ごぼうの風味が香る五目ご飯
 - 味のしみた鶏肉がおいしいチキンライス
 - モチモチした食感の山菜おこわ
 - 常温でもおいしく食べやすいけんちん汁
 - COCO 吉番屋とのコラボカレーライス
- ※ご飯とカレーを一緒にあためられる便利なパッケージ。
- しっとり香りの良い長期保存パン
(ブレン・メープル)
- ※この他チョコや米粉パン・玄米つぶあんパンなど各種あり
- アレルギー対応米粉クッキー
(イチゴ・ココナツ)

参加者のコメントの一部をご紹介します

「毎日非常食だと飽きてしまうから、これだけ種類があると有難い」
 「これならローリングストックできそう」
 「バックご飯より、おいしい」
 「水だけで調理したものもおいしく食べられるとわかって安心した。逆に電気や火の大切さも実感した」
 「選択肢があるのはうれしい。家族に作ったふりして、こっそり出して反応を見てみたい」
 「災害時はもちろん、登山やキャンプでも使ってみたい」
 「非常食＝乾パン、という印象だったのでびっくり。どれも普通のご飯でおいしかった」
 「しょっぱいものから甘いものまで色々な種類を試せて良かった」
 「甘いものがあるとやっぱりほっとする」
 「味がしっかりしていて使い勝手も良いので旅行やドライブの車中にも使えそう」

「食べ物って心の安らぎにもつながるのでおいしいと精神的な支えにもなる」
 など感想や意見は前向きなものばかりでした。



SDGsを暮らしの中で実践

今回の試食会では実際作ってみることで、食べてみることの大切さがよくわかりました。保存食と言えば「乾パン」などの味気ない印象だったみなさんの認識を新たにしたい今回の試食会。おいしく手軽な保存食は朝食に、テイクアウトの代わりにと毎日の食に活用したいという声が多く聞かれました。

定期的に保存食を消費してローリングストックを実践すること—それは日常で無理せずできるSDGsのひとつかもしれません。尾西食品株式会社のホームページには保存食を使ったアレンジレシピも掲載されています。ぜひ一度ご覧ください。

ENTLINKでは今後も定期的に座談会や体験会を開催し、みなさんと体験を共有するとともに情報を発信してまいります。

※アルファ米とは
炊き立てのご飯を急速乾燥させたのがアルファ米。冷凍のまま乾燥させるフリーズドライに比べ、もっちりした食感があります。

今回保存食を提供いただいた尾西食品株式会社のシリーズをご紹介します

おいしく安心、そして使いやすい。アレルギーなどにも配慮した保存食がバリエーション豊富に揃っています。



Onisi 尾西食品株式会社

<https://www.onisifoods.co.jp/>
詳しくはHPでご確認ください





写真提供:宮城県観光プロモーション推進室

「共助の力」で復興を後押ししよう

食えること、買うこと、旅することが、 地域とあなたの力になる。

「防災・減災」とともに大切なのが、被災してしまった人たちの復興を、「共助の力」で後押しするということ。とくに昨今の風水害は、東北や九州・沖縄地方といった、食材生産地や観光地を直撃し、深刻な被害をもたらしています。

避難所の確保や炊き出しといった直接的な支援の後には、被災前の生活を取り戻し、持続可能な産業を再生・活性化していく長い道のりが待っています。

また自然災害以外にも、ALPS処理水の海洋放出により、三陸沿岸をはじめとする水産業全体が、風評被害にさらされています。

様々な困難を、私たち日本人は「共助の力」で乗り越えてきました。

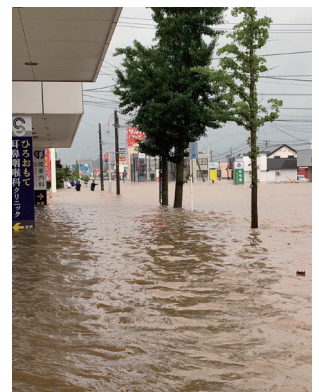
ENTLINKは、集合住宅に生活する皆さんの力を、復興に向かう地域の力に転換するお手伝いをしていきたいと思ひます。



沖縄県 台風で倒れたサトウキビ

今年7月中旬に秋田県を襲った大雨は、農林水産関係の被害額が約135億3千万円となり、大雨被害として過去最大の規模となりました。秋田県内16の河川が氾濫し、田畑の広範囲が浸水。秋田の代表的な産物である「米」や「大豆」の被害が特に深刻です。沖縄県では台風6号によって代表的な農産物のサトウキビをはじめ、農業や観光業でも大きな被害を受けました。

増加する自然災害や 風評被害災害。



秋田市内の水害の様子

そうした自然災害以外にも、風評により被害を受けている地域があります。

今年8月24日、東京電力第一原子力発電所の建屋内にある放射性物質を含む水について、トリチウム以外の放射性物質を安全基準を満たすまで浄化した「ALPS処理水」が放出されました。生産者と消費者をつなぐ国内最大級の産直アプリ「ポケットマルシェ」を運営する株式会社雨風太陽は、ALPS処理水の放出を受けて、ポケットマルシェ登録漁業者を対象にアンケートを行いました。4割超の漁業者が「処理水の海洋放出に伴い、売上が減少した／減少が見込まれる」と回答しました。

買って、食べることで、生産者の力に。

地方が直面しているこのような危機を「助け合いの力」で克服しようという動きも活発化しています。ALPS処理水放出以降、海外からの中傷や輸入停止措置に相反するかのよう、国内では「福島を応援しよう」「日本の水産業を自分たちで持続させよう」という声が高まっています。福島県いわき市のふるさと納税額は放出前と比較して約7.8倍と急増。SNSでも「福島の魚を食べよう」という声が拡散しています。

復興を後押しするネットワーク

「ふくしま応援企業ネットワーク」は、原子力事故の影響による福島県への風評被害払拭に貢献しようという想いを持つ企業により運営されている組織。2023年10月現在、

181の企業が集まり、福島県産品の積極的な購入や県内施設の利用促進を図りながら、情報交換と活動の輪を広げています。

活動の柱は「買って応援」「食べて応援」「行って応援」の3つ。

<https://fukushima-oknet.com/>

「買って応援」は、「ネットで買う」「販売会で買う」「現地で買う」方法を掲載。実際に購入できるECサイトの紹介もしています。

「食べて応援」では、旬の福島県産品の美味しい料理方法などを紹介。

「行って応援」では、福島県内各地の魅力的な観光情報を提供しています。

美味しく応援できる、

「買い支え」「食べ支え」

福島県農林水産部水産課が運営するWEBサイト「ふくしま常磐ものNAVI」は、「常磐もの」と呼ばれる福島県の豊かな海から水揚げされた魚の魅力を知って、味わうための情報プラットフォーム。

<https://fukushima-jobanmono.jp/>



安全・安心への取り組みをはじめ、旬の魚介類と調理レシピの紹介、福島県内や首都圏の飲食店で実施されるオトクなキャンペーンの告知など盛りだくさんの情報が掲載されています。

さらに「まじらまふくしま！東京の店」では、魚介類以外にも、福島県産の食材やお酒を美味しく味わえる首都圏の飲食店86店舗（2023年12月時点）を紹介しています。

<https://majima-fukushima.com/>

みなさんも、美味しく食べて、自分も生産地も元気になる「こだわりの飲食店」を鼻肩にして、美味しい応援をしませんか？

ふくしま常磐ものデジタルスタンプラリー

ふくしま常磐ものNAVIでは、福島県と首都圏の認定店でふくしまの美味しい地魚をたくさん食べていただけるようスタンプラリーを実施しています。

<https://fukushima-jobanmono.jp/stamprally/>

スマホからエントリーして参加店を利用すると、福島県の温泉旅館の宿泊券や、海産物など、ステキなプレゼントに応募できます。

(参加方法)

- ① Webサイト「CJ Monmoパス」にスマホでアクセス。必要事項を入力してエントリー。
- ② 参加店を利用したら、店内に掲示してあるQRコードを読み取りポイントをゲット。※各店1日1回まで
- ③ ポイントが貯まるとプレゼントに応募可能！



こちらよりエントリー
<https://cjpass.jp>



※詳しくはスタンプラリー紹介ページを御覧ください。
<https://fukushima-jobanmono.jp/stamprally/>



旅することが 被災地とあなたの力に

被災を経験した「復興地域」を旅することで、地域に活気を取り戻し、旅人も癒やされて元気になる。そして震災の記憶の風化を防ぎ「いざ」というときの備えを共有する。そんな「復興ツーリズム」が各地で行われています。

たとえばJR東日本では、東北各地で震災伝承施設の整備が進んだことを契機に、地域と連携して東北における復興ツーリズムを推進しています。防災・減災学習が可能な震災伝承施設とともに、日本の原風景が残る多様な東北の魅力を訴求していくことで、交流人口の拡大を通じて被災地域の復興加速や地域活性化につながるのが狙い。たとえば復興ツーリズムの旅「仙台・宮城篇」では、復興とさらにその先の未来へと進むまちの様子、人々の暮らしをめぐる二泊三日のコースを紹介。「みちのく潮風トレイル八戸篇」では、絶景の宝库といわれる種差海岸をトレッキング。ウミネコに触れたり、高山植物を見たり、日本食を食べたり。美しい海岸線をのんびり散策する三泊四日の旅を提案しています。



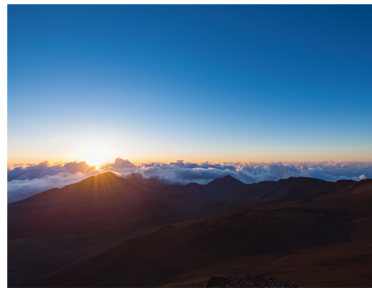
潮風トレイルで立ち寄る種差海岸(八戸市)

また福島県では「ホープツーリズム」として、福島のあるのままの姿と復興に向け果敢にチャレンジする人々との対話を通して、震災・原子力災害の教訓と、そこからの復興や様々な課題をどう乗り越えるかなどを考えることで自分自身を成長させる学びの旅を推進。お隣の宮城県では「みやぎ復興のたび」として、県内の各エリアに所在する伝承施設や、魅力あふれる新スポット等を見て回る際のモデルコースを紹介しています。

こうして復興へ向かう地域の物を食べ、防災の知識を身につけることで、地域も旅人も明日への力を得ることができるようになります。



いわき市ラ・ラ・ミュウ 写真提供: 福島県観光物産交流協会



元気になる旅へ、 あなたのエネルギーをハワイに。

Pray & Play for Hawaii

火災により甚大な被害を受けたマウイ島西部。しかし、マウイ島の他の地域や他の島々への渡航は、復興のため大きな力に！
ハワイの旅は、ハワイも、あなたも、元気になります。



マウイ島復興に向けたメッセージボード



国内のみならず、 海外へも広がる「旅支え」



2023年8月にハワイ州マウイ島で発生した山火事で、マウイ島西部の市街地に甚大な被害が発生しました。現場では、復旧作業が懸命に行われていますが、すでにハワイの各所で、マウイ島の復興を支援する寄付活動やイベント、売り上げの一部が寄付される商品の販売が行われています。

また日本国内でも10月26日〜28日に大阪で開催された「ツーリズムEXPOジャパン2023大阪・関西」において、マウイ島へのメッセージボードを展示したり、被害が甚大であったエリア以外への渡航を促すツアーの紹介が実施されました。旅行会社の多くが「ハワイを元気にするツアー」を企画しています。

ぜひ、次のバカンスは、災害から復興に向かう地域への「復興ツーリズム」を検討してはいかがでしょうか？

「100年先も安心」を目指して



関東大震災から100年 TOKYO 強靱化プロジェクトが始動

関東大震災から100年の節目を迎える本年、東京都は災害に強い都市「東京」を実現するため、「TOKYO強靱化プロジェクト」を始動しました。その詳細を東京都政策企画局に取材しました。



プロジェクトの成り立ちとは？

気候変動の影響により頻発化・激甚化する風水害や、いつ起きてもおかしくない首都直下型地震、火山噴火など、東京は様々な危機に直面しています。

こうした危機から都民の生命を守り、首都東京の機能や経済活動を維持するため、関東大震災から100年という節目に「TOKYO 強靱化プロジェクト」を始動しました。プロジェクトでは、新たな取組に着手することにも、これまでの施策もレベルアップしていきます。

今後、プロジェクトを着実に推進することで、強靱で持続可能な東京を実現します。

具体的な施策は？

大きく分けて5つのカテゴリーがあります。

①風水害への対策

激甚化する風水害から都民を守る

近年、経験したことのない豪雨が発生するなど、東京を取り巻く環境も大きく変わっています。川や海の近くであっても安心して暮らせるよう、また安全に避難できるように、対策を進めます。

浸水対策

河川の氾濫を防ぐため、調整池の整備を進めています。たとえば地下40mに巨大トンネルを整備し、川があふれないよう水を一時貯留します。

高潮対策

気候変動の影響による60cmの海面上昇に対応するよう、防潮堤の高上げを推進します。また、水門操作に当たりAIを活用するなど、デジタル技術も活用し、取組を強化します。

土砂災害対策

衛星データを活用して広範囲において不適正盛土を効率的に把握します。

地下施設の水害対策

地下鉄に防水ゲートの設置を進めるとともに、地下街の避難誘導対策を強化します。

強風対策

都道における街路樹の診断・対策を推進するとともに、看板等の点検強化を促進します。

②地震への対策

大地震があっても、「倒れない、燃えない、助かるまち」をつくる

今後30年以内に70%の確率でM7クラスの地震が南関東で発生すると予測されています。建物倒壊や火災の発生、道路の寸断、停電断水など多大な被害が想定されています。こうした被害を抑えるための施策を推進します。

緊急道路の対策

地震発生時にも緊急車両等が通行できるように、緊急輸送道路沿道の建物の耐震化を支援します。また、都道の無電柱化を加速していきます。

防災拠点対策

広域防災拠点へのアクセス道路や、防災船着場を整備します。

木密地域の整備

火災の広がりを防ぐため、木造密集地域の建替えや、私道などの無電柱化の支援を拡充します。

住宅の耐震化

耐震性の低い木造住宅やマンション等共同住宅の耐震化に対する支援を拡充します。

避難対策

災害時に生活継続しやすい住宅の普及を推進するとともに避難所の混雑情報をリアルタイムに把握・発信します。

③火山噴火への対策

噴火が起きて

都市活動を維持する

富士山が噴火した場合、火山灰は東京の区部においても2〜10cm積もると想定されます。一刻も早い都市機能の回復をめざし、対策を講じます。

交通網の早期回復

道路機能を早期に回復させるため、降灰除去を行うロードスイーパーなどの資機材を確保します。

降灰の集積・処分

区市町村等と連携し、降灰の仮置き場等を確保するとともに、迅速な降灰処分にに向けた取組を進めます。

④電力・通信の途絶への対策

災害時の電力・通信

データ不安を解消する

災害時の停電や通信障害による影響を最小限に抑えるための取組を推進します。

災害時の電力の確保

太陽光発電や蓄電池などの再エネ設備の導入を促進するなど、在宅避難に繋がる取組を推進します。

通信網の確保

いつでも、誰でも、どこでも「つながる東京」を目指し、Wi-Fi・アクセスポイントの整備や衛星の活用、島しょ部の海底ケーブルの敷設を推進します。

データの保全・活用

サーバのクラウド化を推進しデータの保全に取り組みます。また、デジタルツインによる災害シミュレーションを実施します。

⑤感染症にも強いまちづくり

感染症にも強い

まちをつくる

密を避け、安心して集える空間の創出や、交通手段の多様化など、感染症にも強いまちをつくりまします。

憩いとゆとりのある都市空間

人々が楽しく憩う屋外空間と潤いある水辺空間を整備します。

交通手段の多様化

自転車道の整備や船の活用など、交通手段の多様化を推進します。

多様な働き方・住まい方を支援

職住近接で多様な働き方・住まい方が選べるまちづくりを推進します。

地域力を高めて 災害に強い 街づくりを



最後に東京都総務局からマンションに住む方への助言をお願いします。

自助について

備蓄品の準備と 転倒防止などの備え

マンションでは多くの場合、在宅避難が中心になります。みなさんには、災害の被害を最小限に抑えるため、日々の備えと心構えをお願いします。備蓄品については個々に異なりますから、確認の上、用意してください。家具転倒への備えなども大切な備え。こうした災害への備えを促すため、今年9月に「東京くらし防災」「東京防災」という2冊

の冊子をリニューアルし、マンション防災の普及啓発リーフレットと合わせて全世帯に配布しています。WEBでも見ることができるとぜひ参考にしてください。

共助について

ふだんの地域連携で 災害時の安心を確保

災害時、個人でできることも自治体のサポートも限られています。マンションにおいても地域の助け合いは非常に重要なポイント。まずは日頃のあいさつからお祭りなどのイベントを通じた連携があると防災訓練もスムーズに行えると思います。地域の消防団や町会への積極的な参加などを心がけ、いざという時に助け合える地域力を高めたいものです。みなさん一人ひとりが意識することで地域力を高め、災害に強いまちづくりを実現していきましょう。



日常の暮らしの中で取り組める防災行動や、多様な視点での防災行動を掲載



防災に関する知識をさらに深めることができる、災害を取り巻く最新の情報などを掲載



日頃の備えと地域での連携、「共助」の重要性についてリーフレットを作成

知る・見る・考える「自助・共助」 東京防災学習セミナー



東京都では「進めていこう自助・共助」の標語のもと、地域防災力向上のためのセミナーを行っています。
今回はその中から「マンション防災セミナー」について、東京都総合防災部にお話を伺いました。



マンション防災 在宅避難と 備蓄について

マンション防災セミナーを始めたきっかけは？

東京都内でマンション等の共同住宅に住む人口は約900万人。耐震基準を満たした住宅では在宅避難が可能となります。そのため準備と備蓄をぜひ実行してほしい。みなさんの行動を少しでも後押しする試みの一つとして、本年度からマンション防災セミナーを始めました。

今までセミナーの申込はどんな所からありましたか？

都内の区部・多摩地区・など様々な団体から申込がありました。団地単位で申し込まれる場合もあります。

セミナーに要する時間はどれくらいですか？

大体60分から90分くらいです。

セミナーを受けられた方からの感想はどんなものがありましたか？

反響があったのは「冷蔵庫の転倒防止」です。家具の転倒防止は対策を施していても、冷蔵庫までは考えていなかった方が多かったようです。そして「セミナーによって得たのは知識もあったが、一番大切なのは『意識』だ」ということがわかった」とのご意見もいただきました。

マンション防災セミナーの内容を教えてください

主にM1（マンション防災の基本―自助について）と、M2（みんなで進めるマンション防災―共助について）の2種類のセミナーがあります。この他防災コンサルティングもご用意しています。

M1の自助について教えてください

地震について

事前の備えとしては安全を確保するため家具に転倒防止器具を付ける、家具の配置を工夫するなど普段できることは色々あります。超高層マンションにおいては長周期地震動が発生した場合、高層階ほど揺れの幅が大きくなります。ソファが10mも移動して家具を壊した例などもあります。転倒防止や移動防止の器具なども慎重につける必要があります。



マンション 全体での 備えが大切

備蓄については1週間分の水と食料、簡易トイレの準備をお願いします。カセットコンロも必要です。その他、家族の連絡方法や消火器の位置確認も大切です。

発生時

まず家具の転倒などに注意し自分の身を守ってください。もしエレベーターに乗っている場合はすべての行先ボタンを押し、止まった階で降りてください。

また自宅のトイレが無事であっても排水管が破損している場合があるため、安全に使用することが確認できてから使用してください。それまでは携帯トイレを使用しましょう。

風水害について

事前に食料や水・電池などを用意しましょう。ベランダなどでは飛散の危険のある物を片付けてください。近年では予想を上回る風水害があるので、情報のチェックはこまめにしましょう。急な大雨の場合は避難が必要となるので、上へ上へと垂直避難も考えてください。自分の避難所もあらかじめ確認しておきましょう。

M2・共助について教えてください

共助については地震も風水害も対策は共通していることが多くあります。事前の対策がいざという時明暗を分けます。ぜひふだんの

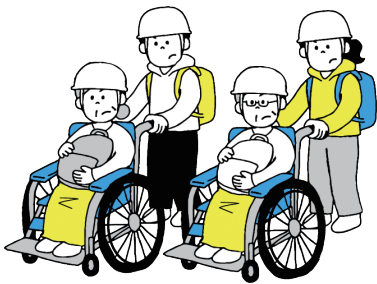
生活の中で共助の仕組みを作ってほしいと思います。

マンション全体の備蓄はエレベーターが使用できない場合を想定し、数階ごとに防災倉庫があると、スムーズな運搬ができます。水や毛布の他、消火器、発電機・リヤカーなどの資器材があると安心です。また居住者のリスト・連絡網や要配慮者リストや、災害時のマニュアルがあると迅速な対応ができます。

災害発生時

まずご自身の安全を確保の上、隣近所の安否確認をお願いします。自宅にとどまるか、避難所へ移動するべきかを、近隣で相談してください。在宅避難となった場合には、マンション内の備蓄の仕分けや災害対応スペースの整備なども必要となります。地域の避難所と連携を取り、物資の運搬やケアを積極的に担っていただけると心強いです。

避難所へ移動する場合、要配慮者の方の移動には手助けが必要不可欠です。居住者同士で役割分担し、共に困難を乗り越えることが大切となります。さらには避難所の運営も協力し合えると、より地域力が高まるのではないのでしょうか。



今の課題は何でしょうか？

マンションでは町内会や自治会に加入していない方が多くおられます。その方たちへのアプローチが課題だと考えています。情報がいかに届けるか、地域といかにつながってもらうか、などを解決するべく取り組んでいます。

地域を支える コミュニティは まいにちの 挨拶から

マンションに暮らすみなさんへ
一言お願いします

今、隣に住む人の顔さえわからない、という方も多いと思います。プライバシー重視の中、名簿を作成するのも難しいかもしれません。でもいざという時頼りになるのは、やはり隣近所であり地域力です。災害が起きたら協力する、というのでは間に合いません。たとえばお祭りなどのイベントや防災訓練を組み合わせて、より多くの居住者、地域のみなさんとのつながりを深めてほしいと思います。また町内会では役員の高齢化が問題となっていますので、できれば若い方に積極的に地域活性化を担ってほしいと考えています。難しくとらえず、まずは「おはようございます」の挨拶などから始めてほしいと思っています。マンション防災のリーフレットの全戸配布もしていますので、ぜひ役立ててください。

ありがとうございました

防災への備えは長く継続することが大切です。私たちENTLUNKでは楽しい話題とともに、防災に役立つ情報を提供し続けたいと考えています。またマンションに住む方同士、住民の方と地域のつながりが広がるお手伝いができるような誌面作りを目指したいと思います。





The Children's Conference of the Future in Support of the United Nations

国連を支える世界こども未来会議

SDGsピースコミュニケーションプロジェクト
SDGs Peace Communication Project

ご存知ですか？
コミュニティの次世代を担うこどもたち
自身で未来を描くプロジェクト

国連を支える世界こども未来会議

世界のこどもたちが交流しながら平和について考える「国連を支える世界こども未来会議」。SDGsの17の目標のうち、とくに「16／平和と公正をすべての人に」「17／パートナーシップで目標を達成しよう」を重点的なテーマに活動を続けています。

2019年に東京オリンピック・パラリンピック公認プログラムとしてスタート。現在は、こども家庭庁・内閣官房国際博覧会推進本部・外務省・東京都などが後援。国連本部の認定を受け、日本各地のこども達が集まり、SDGsを軸に平和で豊かな世界について語り合うピースコミュニケーションの場として毎年開催しています。

これまでの主たる活動

2023 3 第3回 国連を支える世界こども未来会議

国内外から14カ国約60名のこどもたちが参加し、10のグループに分かれて平和へのアプローチについて意見交換を行いました。会議は、「SDGsゴール16. 平和と公正をすべての人に～平和な世界をつくるためには～」がテーマで、ジャーナリストの堀潤氏が自身の取材を通して伝える平和の講義を聞き、グループワーク。平和を実現するために必要なことは何かと考え、最終的にグループの考えをまとめて発表しました。

2023 7 国連を支える世界こども未来会議 in OKINAWA

「沖縄をより住み続けられるまちにするにはどうしたらよいか」について、沖縄在住のこどもたちがグループに分かれてディスカッションを行い、アイデアを発表しました。「ごみ拾いをして環境をもっときれいにしていきたいと思います。それによって沖縄に来る人が増えるはずだから」といった観光が重要な資源である沖縄ならではの自然に対する考え方など、沖縄の現状を踏まえた意見が活発に飛び交った。



01



02



03



04



05



06



07

2023 7 国連本部でキッズアンバサダーが「世界子ども未来会議のアイデアブック」提出

米ニューヨークの国連本部でキッズアンバサダーより「第3回国連を支える世界子ども未来会議」でのアイデアをまとめたアイデアブックを国連本部グローバルコミュニケーション局に提出。また同日、「国連を支える世界子ども未来会議～プロジェクト発表イベント」を行い、サムライギタリストMIYAVIが制作した本会議テーマソング「That's What I'm Gonna Be」を初披露しました。

2023 9 国連を支える世界子ども未来会議 in OSAKA

「住み続けられる未来の大阪」をテーマに、大阪在住の子どもたち約40人が持続可能な都市づくりのアイデアを出し合いました。「大阪は犯罪率が高いので、社会貢献をして人を優しくして犯罪を減らす」という案に、会場の大人たちも頭が上がり苦笑いする一幕もあり、大阪らしくユーモアあるアイデアが集まりました。最優秀賞は、会場と審査員一致で「感謝の気持ちを形にする。“ありがとう週間”を作る」というアイデアを発表したグループが受賞しました。

2023 10 国連を支える世界子ども未来会議 in SHINAGAWA

10月15日、品川区役所でもイベントが開催されました。品川区の小学4年生から6年生まで約30名が「住み続けられる未来の品川区」をテーマに討論しました。「住み続けられる未来の品川区」を実現するためのビジョンとアクションについて話し合いました。

「生命を思いやる愛が大切」「共有の場を作る」「価値観の理解が大切」「SDGsのポスターを学校につくる」など、様々な提言がなされました。その後、質疑応答やジャーナリスト堀潤さんの講演があり、最後には各グループの提言の中から最優秀賞を選定。最優秀賞に選定されたのは、街中で困った人が使う「助けてくださいカード」の実現を提案したグループでした。

2023 11 国連を支える世界子ども未来会議 in TOSHIMA

「住み続けたい未来の豊島区」をテーマに、豊島区の子供たち約40人が約5時間にわたって将来の豊島区の姿について考えました。同区の小学校ではSDGsに関する学習を積極的に進めていることから、話し合いの内容も、ゴミをひろうといったことから、自然環境の保護、クラウドファンディングや経済面、さらには愛と友情まで発展。「何よりも思いやりが重要で、それによって成長できる」「でも、ひとりで思いやりを持って何の意味もないよね」「だから広めることが必要だね、そのためにも発表する場所が必要だ」といった具合にテンポのいいやりとりがあちこちで行われていました。最優秀賞を受賞したグループには、2024年3月に東京都庁で開催される「第4回国連を支える世界子ども未来会議」への参加権が与えられました。

これからも、「地元密着」「世界的視野」という2つの視点で活動が続いていく同プロジェクト。ENTLINKでも、全国の集合住宅にお住まいの子どもたちのネットワークを活かして、この活動への参加を考えています。

- 01 国内外から多くの子どもたちが集まりました
- 02 「住み続けられる未来の沖縄」のアイデアを発表
- 03 国連本部をキッズアンバサダーが訪問
- 04 大阪らしいユーモアあるアイデアが集まりました
- 05 子どもたちが考える理想のまちづくりを堂々と発表
- 06 ジャーナリストの堀潤氏も参加
- 07 将来の豊島区の姿について熱意を込めて発表

写真提供：一般財団法人ピースコミュニケーション財団 <https://peace-communication.or.jp/>

もっと知りたい身近な市役所・区役所

暮らしを支える

自治体の今を知る

あなたにとって市役所区役所はどんな所ですか？
届け出をするところ、住民票を取るところ、保育園の申込み、納税相談、ワクチンの相談…？
何となく事務的なことを処理してくれる所と思いがちです。
でもいざという時の公助の要でもある自治体は様々な形で私たちの暮らしをバックアップしてくれています。
ENTLINKでは自治体のアクティブな活動をご紹介します。
初回は先進的な取組をしている東京都大田区を取材しました。



健康づくりを通して地域の絆を深める大田区

スマホを片手に散歩をしている
年配の女性に声をかけると
「はねびよんのポイント
ためてるんですよ」と
意外な答えが返ってきた。

大田区が区民の健康促進のために開発した「はねびよん健康ポイント」というアプリは多くの大田区民に親しまれているが、この鵜の木エリアでは今年の2月に、このアプリを活用するなどしてクイズ&ウォーキングラリーを開催した。参加したこの女性は、地域の同じ参加者と出会い、それ以来アプリで情報交換をしているという。



©大田区

令和5年度SDGs未来都市と自治体SDGsモデル事業にダブル選定された大田区は、都内23区の中でもっとも広い面積を誇る。18のエリアに分割し、それぞれ特別出張所で地域の活動を支援している。中でもこの鵜の木エリアは多摩川の豊かな流れを抱き、子どもたちが駆け回る公園には古墳時代から残されている埋蔵文化財の横穴墓があるなど、いくつもの史跡が保存されている。

そんな街中で高齢者たちが、スマホのアプリを利用して、健康づくりの仲間を増やしていると聞き、SDGsで掲げられている目標を、ひとつのエリアでいくつも実現しつつある現状に驚きと喜びを感じて取材した。

もともと大田区の保健所で健康づくりを担当してきた職員はこう語る。「健康づくりというテーマは世代を超えて、共感を得られやすい。区の主催でイベントなどを企画するときには、集客や話題性を求めがちだが、ある調査をきっかけにソーシャルキャピタルという概念の大切さに気づいた」。その調査というのが、官学協同でおこなわれた「人生100年を見据えた健康寿命延伸プロジェクト」である。

令和元年から実施されている「キラリ☆健康おた」プロジェクトと前述の「はねびよん健康ポイント」事業を基軸とした、アンケート調査、健康診断、歩行習慣などのデータをもとに、地域参加や近所付き合いなど居住エリアの環境分析や年齢別の人口対比などを大卒などと一緒の研究を重ねてきた。

ENTLINKのWEBサイトもオープン!

ENTLINK創刊号発刊とともにWEB版のENTLINK+PLUS(エントリンクプラス)を新たに開設しました。ENTLINK+PLUSには本誌マガジンの限られた誌面では伝えきれない「プラスアルファ」の情報が盛りだくさん。マンションに暮らすみなさんの役に立つ情報をギュッと詰め込んだ「集合住宅向け専用サイト」です。マガジン同様ライフスタイルにSDGsの要素を取り入れる提案を多様な形でご紹介。地球にやさしい未来型の生活づくりに役立つ、魅力的なニュースをお届けします。



またENTLINK+PLUSには、マンションの設備&工事情報を満載した設備情報サイト「マンション設備+PLUS」も開設しています。修繕において「どこの業者を選定するか、工事費はいくらか」という悩みから、「どのような設備を導入すればマンションの付加価値が上がり、ライフ生活が向上するか?」といった悩みに役立つサイトです。



これからも「ENTLINK+PLUS」は快適で住みやすいサステナブルな居住空間を作るために「衣」「食」「住」「娯楽」、それぞれをテーマに様々な情報を発信していきます。LIFE SHIFTを目指して——私たちもさらに進化したいと思っています。

<https://entlink.jp/>



編集後記

2023年は自然災害が世界各地で発生しました。日本では冬に入っても半袖で過ごせるような陽気があり、寒暖差で体調をくずした方も多かったのではないのでしょうか。

創刊号では防災特集をお届けしました。齊田氏インタビューの当日もひどい暴風雨の天気。一時は中止も頭に浮かんだのを覚えています。何とかインタビューと撮影を終えた時はほんと胸をなでおろしました。

年々、気候変動の及ぼす影響が大きくなっています。かつてない規模の災害、経験したことのない災い、記録の更新…

今までの対策では防げないことが増えています。今回、行政や自治体は様々な防災対策をしていることを知りました。私たちも災害に対して様々な備えが必要だと感じています。今号が少しでもみなさんの防災意識の向上に役立つことができたら幸いです。エントリンクでは今後も無理なくSDGsをかなえる、楽しい情報をお届けしていきます。

最後に東京都や大田区、尾西食品株式会社様など記事にご協力いただいたみなさまに心より感謝しております。ありがとうございました。



お風呂の5分間が、肌運命を変える

初めまして。マナビス化粧品です。

「ずっと素肌でいたいから。」

私たちの使命は そう願う方の美肌づくりのお手伝いです。

創業以来、お風呂の時間を少しだけいただく

インバスケアを提案しています。

そう、マナビスのスキンケアは

お風呂の中から始まるのです。

浴室内で、丁寧な洗顔と保湿をしっかりと。

これが美肌への第一歩であり、

近道だと、私たちは考えています。

一生付き合う自分のお肌を、

明日も好きでいられるように。

そして自分らしくいられるように。

私たちが少しでもお役に立てますように。



マナビス 薬用スキンマスク
¥5,500 (税込)

マナビス 薬用スキンウォッシュ
¥5,500 (税込)

MANAVIS

〈発売元〉 株式会社マナビス化粧品

〈問い合わせ先〉 0120-268-510

〈オンラインサイト〉 <https://manavis.store/>

〈Instagram〉 <https://www.instagram.com/manaviscosme/>



雑誌購読希望、オリジナルマガジン発刊はお問い合わせください。

2023年12月25日発行 発行所:一般社団法人エントリンク
〒2160031 神奈川県川崎市宮前区神木本町4丁目12番22号

詳しくはこちらから! →

「ENTLINK®」は株式会社セーフティ&ベルの登録商標であり、株式会社セーフティ&ベルから使用許諾を受けて使用しています。

